

12 月動向 在庫 3 割 85 万トン増
未契約 51 万トン、販売 2 割減

備蓄米の放出を受けて供給余力が膨らむ中、農水省の調査によると、昨年 12 月末で令和 7 年産米の集荷数量が前年より約 35 万トン（2 割弱）増える一方、販売数量は需要の鈍化で 2 割減少。民間在庫は 8 カ月連続で前年同期を上回り、前年比で 85 万トン（3 割強）膨らんでいることが分かった。

昨年 12 月末における 7 年産米（水稻うるち）の集荷数量は、主食用米の予想収穫量が前年産を約 68 万トン上回るとみられる中、JA 系統と民間集荷業者の競合も加わって前倒しで進行して 249 万 1000 トン（前年同期比 34 万 9000 トン = 16%増）と集計されている（表①参照）。

年同期比で集荷数量が約 1 割増えている産地は北海道・宮城・山形・滋賀・福岡など。前年より 2 割増えている産地は秋田・栃木・愛知・徳島・愛媛など。青森は 5 割増、福島は 4 割増だった。群馬・埼玉はほぼ倍増となっている。

全農・経済連など集荷団体とコメ卸との契約数量（数量のみの契約を含む）は 197 万 8000 トンとなり、前年同期よりも 7 万 5000 トン（4%）多い。ただし、集荷競争の激化によって系統組織が年間取引予定数量を十分に卸に示せていなかった 6 年産との比較であり、7 年産の増加は「一定程度の回復」とみた方が適切だろう。集荷数量に対する契約進捗率は前年同期より 10 ポイント低い 79%に。

前年同期との比較で産地別の契約数量は、青森・福島・岐阜・和歌山・宮崎などが大きく増加。反対に群馬・山梨・石川・愛知・三重・徳島・愛媛・熊本・大分などは減少率が大きい。産地ごと温度差がある。

集荷団体から卸に引き取られた実績で集計される販売数量は 50 万 4000 トンと集計されており、前年同期より 11 万 6000 トン（19%）少ない。青森・宮崎・鹿児島などごく一部の産地を除き、ほとんどの産地が販売数量の減少に見舞われている。

7 年産の全国ベース販売数量は、▽8 月 20 万 7400 トン（前年同期比 8%減）▽9 月 11 万 9000 トン（16%減）▽10 月 28 万 7000 トン（4%減）▽11 月 37 万 5000 トン（17%減）▽12 月 50 万 4000 トン（19%減）。4 カ月連続の前年割れで推移している。

① 7年産米の産地別契約・販売状況（千玄米t、累計、うるち米、7年12月末）

産地	集荷	契約	進捗率		販売	年同期比			
						集荷	契約	販売	
北海道	285.7	225.7	79%		80.9	28%	+12%	▲1%	▲3%
青森	145.4	102	70%		25.6	18%	+52%	+31%	+36%
岩手	107.5	76.1	71%		13.6	13%	+3%	▲9%	▲24%
宮城	138.9	134	96%		17.5	13%	+8%	+10%	▲30%
秋田	238.9	208.1	87%		34.2	14%	+22%	▲7%	▲23%
山形	157.6	104.3	66%		17.8	11%	+8%	+11%	▲32%
福島	159.9	111.6	70%		12.1	8%	+36%	+101%	▲22%
茨城	65.1	64.3	99%		13.8	21%	+16%	+6%	▲39%
栃木	101.1	81.1	80%		10.1	10%	+23%	+21%	▲18%
群馬	19.3	2.3	12%		0.2	1%	+80%	▲58%	▲85%
埼玉	15.2	11.1	73%		1.5	10%	+118%	+10%	▲39%
千葉	55.6	36.4	65%		30.7	55%	+15%	▲28%	▲12%
東京	-	-	-		-	-	-	-	-
神奈川	2.2	1	45%		1	45%	▲1%	▲46%	▲46%
山梨	3.7	0.6	16%		0.6	16%	▲14%	▲56%	▲56%
長野	54.7	42.8	78%		7	13%	▲2%	▲8%	▲37%
静岡	8.2	7.2	88%		0.8	10%	+14%	±0%	▲56%
新潟	281.3	236	84%		54.7	19%	+15%	+8%	▲23%
富山	72.9	69.3	95%		13.1	18%	+7%	+21%	▲27%
石川	27.3	18.4	67%		4.4	16%	±0%	▲36%	▲29%
福井	41.3	37	90%		10.3	25%	▲1%	▲10%	▲29%
岐阜	14.4	14.1	98%		3.2	22%	+47%	+122%	▲13%
愛知	32.1	22.9	71%		5.8	18%	+23%	▲39%	▲35%
三重	14.8	12	81%		3.8	26%	+2%	▲41%	▲37%
滋賀	40.5	29.7	73%		8.9	22%	+11%	+9%	▲47%
京都	5.3	3.6	68%		1.1	21%	▲7%	▲14%	▲60%
大阪	-	-	-		-	-	-	-	-
兵庫	25.6	14.1	55%		3.5	14%	+36%	▲9%	▲36%
奈良	7.1	1	14%		1	14%	+8%	▲50%	▲50%
和歌山	3.8	3.8	100%		1.7	45%	+358%	+359%	+547%
鳥取	23.4	12.5	53%		3.5	15%	+39%	▲11%	▲24%
島根	28.4	25.9	91%		4.4	15%	+5%	▲9%	▲51%
岡山	26.1	34.7	133%		3.9	15%	▲17%	+8%	▲52%
広島	24.5	27.6	113%		4.2	17%	▲7%	▲3%	▲55%
山口	35.8	23.5	66%		10.6	30%	+14%	▲7%	+2%
徳島	4.3	1.5	35%		1.1	26%	+23%	▲36%	▲46%
香川	15.6	20	128%		2.4	15%	+3%	▲5%	▲40%
愛媛	8.4	2.4	29%		2.2	26%	+19%	▲50%	▲40%
高知	8.3	5.2	63%		5.2	63%	+15%	▲28%	▲24%
福岡	44.4	36.2	82%		8.2	18%	+12%	▲6%	▲40%
佐賀	28.4	31.3	110%		4.6	16%	+15%	+25%	▲39%
長崎	6.7	6.3	94%		0.8	12%	+22%	▲12%	▲34%
熊本	19.5	3.3	17%		3.3	17%	+4%	▲56%	▲56%
大分	12.4	3.4	27%		1.9	15%	+32%	▲64%	▲30%
宮崎	14.1	14.1	100%		11	78%	+85%	+85%	+65%
鹿児島	7.1	7.1	100%		7.1	100%	+17%	+17%	+33%
沖縄	1.1	1.1	100%		1	91%	+6%	+6%	▲10%
全国	2,491.00	1,978.00	79%		504	20%	+16%	+4%	▲19%
前年差	+349.0	+75.0	▲10pt		▲116.0	▲9pt			

注) ①全農、道県経済連、県農協、道県出荷団体、出荷業者（いずれも年間 5,000 t 以上規模）からの報告に基づく②全国欄には産地の特定ができない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない③「-」は集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないもの。

集荷が進捗して契約が微増となりながらも、販売は低迷。このため民間在庫は338万トとなり、前年同期より85万ト（34%）膨張。7年産は307万ト（前年同期比31%増）、1年古米の6年産は22万ト（100%増）、未検査米は9万ト（13%増）の在庫がある（表②参照）。

②出荷・販売段階別の民間在庫量（万t）

	6年 12月末	7年 12月末
出荷段階	196	260
対前年差	▲49	+63
販売段階	56	78
対前年差	+4	+22
合計	253	338
対前年差	▲45	+85

（注）①出荷段階は玄米仕入量500t以上の集荷業者など
 ②販売段階は玄米仕入量4,000t以上の卸など③7年10月末は
 売り渡した備蓄米2,000tも含む。

7年産の集荷数量249万1000トは、令和4年同月末における4年産の249万5000トに近い水準。4年産はその後、コロナ禍の終息による業務用需要の回復などで需給が締まる方向で推移していた。しかし7年産は、59万ト（入札分31万ト・随契分28万ト）にも及ぶ備蓄米の放出ともろに重なり、状況はまったく一変している。

また、7年産の集荷数量から契約数量を差し引いた契約残数（未契約数量）は51万3000トに及び、前年同期の23万9000トの2倍以上（115%増）に膨らんでいる。販売の低迷下でヒモつきされていない“浮動玉”が激増している。